

やすらぎ通信

第93号（平成30年8月1日） 発行：大阪急性期・総合医療センター

（写真号）

葉月（はづき）

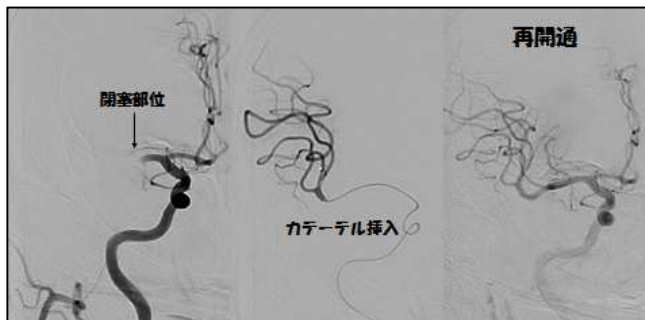


（長居植物園に咲くヒマワリ）

【脳卒中センターからお知らせ】

大阪急性期・総合医療センターは大阪市南部を中心とした地域の脳卒中救急を包括的に治療するため、2005年より Stroke Care Unit (SCU) を設置し、さらに神経内科、脳神経外科、救急診療科が中心となって脳卒中の急性期治療にあたり、速やかに急性期からのリハビリテーションに移行できるよう脳卒中センターを立ち上げ、地域医療に貢献してまいりました。

当センターは脳卒中専門医、神経内科専門医、脳神経外科専門医、脳血管内治療専門医により、集中治療室に準じた SCU と高度な医療機器を備え、いかなる脳卒中にも対応可能です。特に最近力を入れているのは、脳梗塞超急性期のカテーテル治療で、発症してすぐの脳血管閉塞に対しては、80%以上で血流再開することができます。(図1, 2)



(図1)



(図2)



(図3)

当センターには脳血管内治療指導医・専門医合わせて5名が在籍し、いつでも救急対応できる体制を備えております。脳内出血に対しましては、従来大きく開頭して血腫を除去する手術を行ってききましたが、症例によっては内視鏡を用いて血腫を除去するケースもあります。(図3)

また、くも膜下出血に対しては、従来よりの開頭による脳動脈瘤クリッピング手術に加え、カテーテルを用いたコイル塞栓術も積極的に行っています。(図4)

このように多彩な治療法を提供できるマンパワーと設備を地域の脳卒中医療により活かしていきたいと思っております。24時間脳卒中医がホットラインにて対応しますので、脳卒中が疑われましたら、脳卒中ホットラインにご相談ください。



(図4)

脳卒中センター センター長 坂口 学(内科系) / 藤本 憲太(外科系)

24時間対応
脳卒中ホットライン
直通ダイヤル
06-6692-3600

今月の風景



【コメント】

御蔵島(みくらじま)は、伊豆諸島にある日本の島です。野生のミナミハンドウイルカが生息しており、一緒に泳ぐことができます。時期によっては、写真のような小さい赤ちゃんイルカを見ることができます。

<匿名希望「仲良し親子」
撮影地：東京都御蔵島村>

編集後記

今月の表紙は、ヒマワリの花を選びました。真夏の太陽に向かって咲くヒマワリの元気を分けてもらい、花火、海水浴、スイカ、風鈴の音といったさまざまな夏の風物詩を楽しみながら、暑さを乗り切ろうと思います。暑い日が続きますので、熱中症に気を付けていただきながら、読者の皆さまも夏を満喫してください。

<お願い>

読者の皆様からも、今後の表紙と「今月の風景」を飾る写真の投稿をお待ちしております。ご投稿いただける方は下記宛先までお送りください。

【宛先】 kyuseisogo@opho.jp

【注意事項】

- ・投稿写真はご自分で撮影したオリジナルの作品に限ります。
- ・タイトル、撮影日時、場所についてのコメントをメール本文に記載ください。
- ・作品は著作権、肖像権を侵害するおそれのないものに限ります。

当センターは、当センターが「希望の医療空間」「よろこびの医療空間」「やすらぎの医療空間」となるよう日々努力しています。